

Client Hyper-V の設定と OS のインストールのやり方

Windows8 では XP mode はなくなり、代わりにさらに高パフォーマンスで動作するクライアント Hyper-V が実装された。

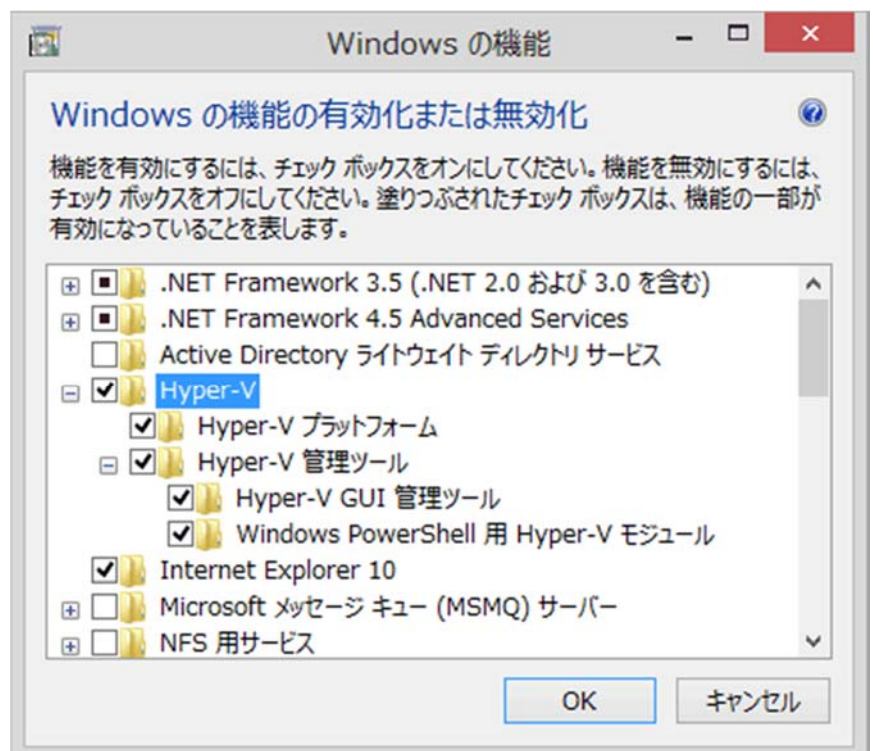
これにより、Windows8 上で Windows XP や、Windows Vista、Windows 7、なども Windows8 とは別次元で（仮想化環境で）動作させることができるうえに Windows7 の XP mode では非力で動かなかったソフトウェアなども動くことが期待される。

クライアント Hyper-V はその機能ゆえか、ある程度のハードウェアスペックと Windows8 Pro 64bit 以上じゃないと使えないので、まずは自分のマシンがシステム要件を満たしているか確認。

クライアント Hyper-V が使える環境であれば、以下の手順にてクライアント Hyper-V を有効にし、他の OS などをインストールして利用可能。

■Client Hyper-V の設定

1. 画面右上をポイントして（画面右側からスワイプして）チャームを表示し、「設定」をクリック（またはタップ）。
2. 「コントロールパネル」をクリック（またはタップ）。
3. コントロールパネルのウィンドウが開いたら、「プログラム」 - 「Windows の機能の有効化または無効化」とクリック（またはタップ）。
4. Windows の機能ウィンドウが開くので、「Hyper-V」の左横にある四角にチェックを入れその左隣にある「+」をクリックし、「プラットフォーム」と「管理ツール」両方ともにチェックが入っていることを確認。
5. 画面の指示に従い Windows を再起動。

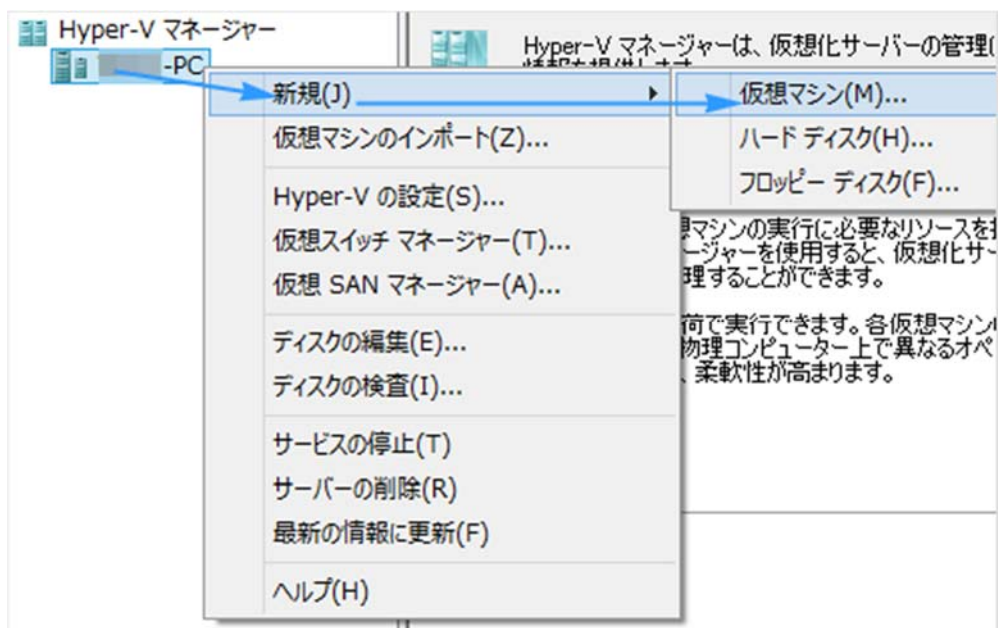


■ 仮想化環境への OS のインストールのやり方

1. Windows を再起動したらスタート画面で右クリックし（画面下から中央へスワイプして）画面右下の「すべてのアプリ」をクリック（またはタップ）。
2. Hyper-V カテゴリーにある「Hyper-V マネージャー」をクリック（またはタップ）。



3. Hyper-V マネージャーのウィンドウが開いたら、画面左側にあるコンピューター名を右クリックして、「新規」 - 「仮想マシン」とクリック。



4. 仮想マシンの新規作成ウィザードのウィンドウが表示されるので「次へ」をクリック。

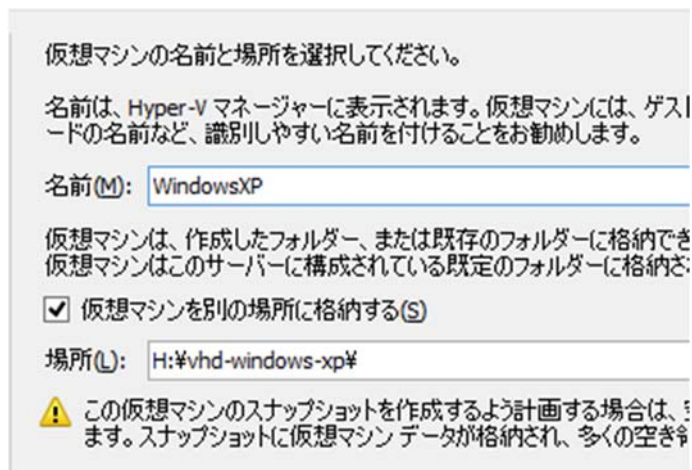
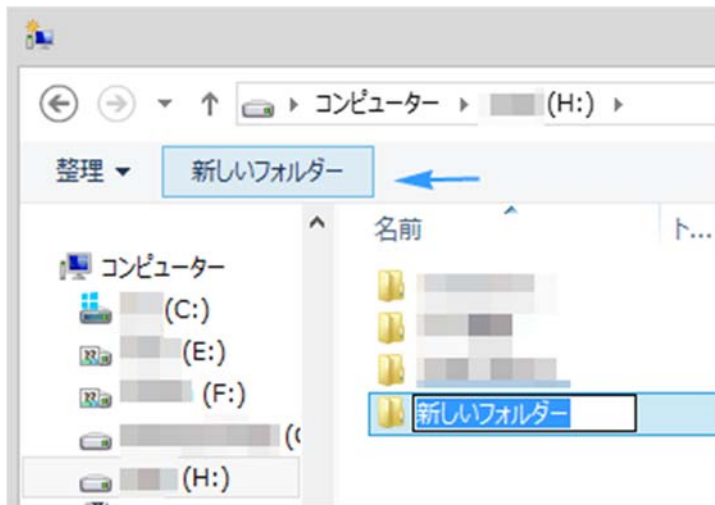
※ここで「完了」をクリックすると既定の設定で C ドライブに仮想マシンの環境が作られてしまうのと状況が良くわからなくなるのとで、カスタム構成にするために「次へ」をクリック。

5. 名前のところのフィールドにわかりやすい名前を入力。

例えば WindowsXP をインストールするならば、「WindowsXP」等と入力。

6. 「仮想マシンを別の場所に格納する」の左側のチェックボックスにチェックを入れ「参照」をクリックし十分に空き容量のあるドライブを選択して、環境を保存するフォルダーを指定。

フォルダーが作成されていない場合には、任意のドライブのところでも画面左上の「新しいフォルダー」をクリックし、できるだけわかりやすく半角英数字でフォルダー名を付けてそれを指定。



7. 「次へ」をクリックし、起動時のメモリの割り当てを決め。パソコンに搭載されているメモリから割り当てられるのであまり多く割り当ててしまうと、仮想マシンを起動した際に本来使っていた Windows8 の動作に支障が出る可能性があるので必要な量だけ割り当てること。

※管理人的にすすめるメモリ割り当て量

WindowsXP メモリ 1GB

WindowsVista & 7 メモリ 2GB

8. 「次へ」をクリックし、ネットワークの構成については後に行うことにして「次へ」をクリック。

9. 仮想ハードディスク接続の画面になるので、「仮想ハードディスクを作成する」のところの名前と場所を確認し、サイズを数値入力。

※仮想ハードディスクを作成するドライブに十分な空き容量がない場合は別の場所を指定して。

※OS により、最低限あったほうが良い容量が異なり。

管理的にすすめるメモリ割り当て量

WindowsXP HDD20GB 以上

WindowsVista & 7 HDD40GB 以上

仮想マシンには、オペレーティングシステムをインストールするための記憶域があることも、後で仮想マシンのプロパティを変更して構成することもできます。

● 仮想ハードディスクを作成する(C)

既定の形式 (VHDX) で容量可変の拡張仮想ハードディスクを作成する。

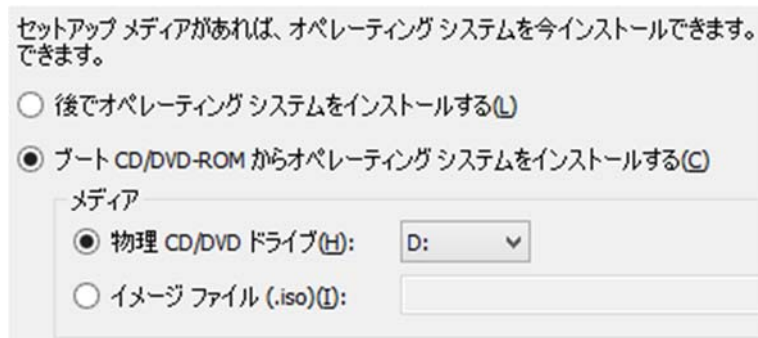
名前(M): WindowsXP.vhdx

場所(L): H:\vhdx-windows-xp\WindowsXP\Virtual Hard Disks\

サイズ(S): 20 GB (最大: 64 TB)

10. インストールオプション画面が表示されるので、「ブート CD/DVD-ROM からオペレーティングシステムをインストールする」のメディアから適切なものを選び、「次へ」をクリック。

※DVD-ROM を所有しているなら DVD-ROM から、ISO イメージで所有しているならイメージファイルからインストール。



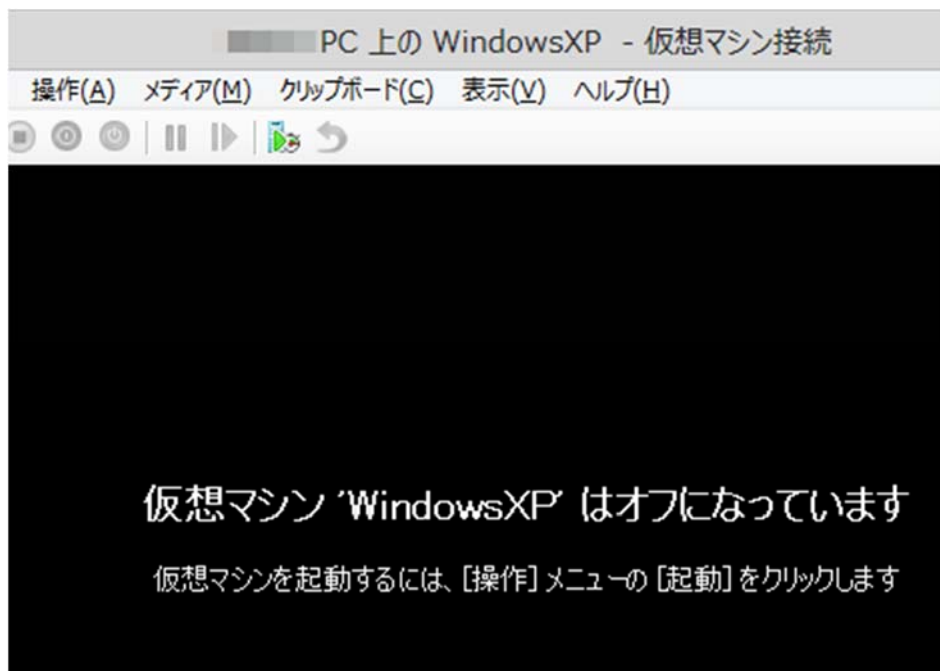
※画像は物理 CD/DVD-ROM を選んでいる。

11. 「仮想マシンの新規作成ウィザードの完了」画面を確認し、設定に誤りがなければ「完了」をクリック。

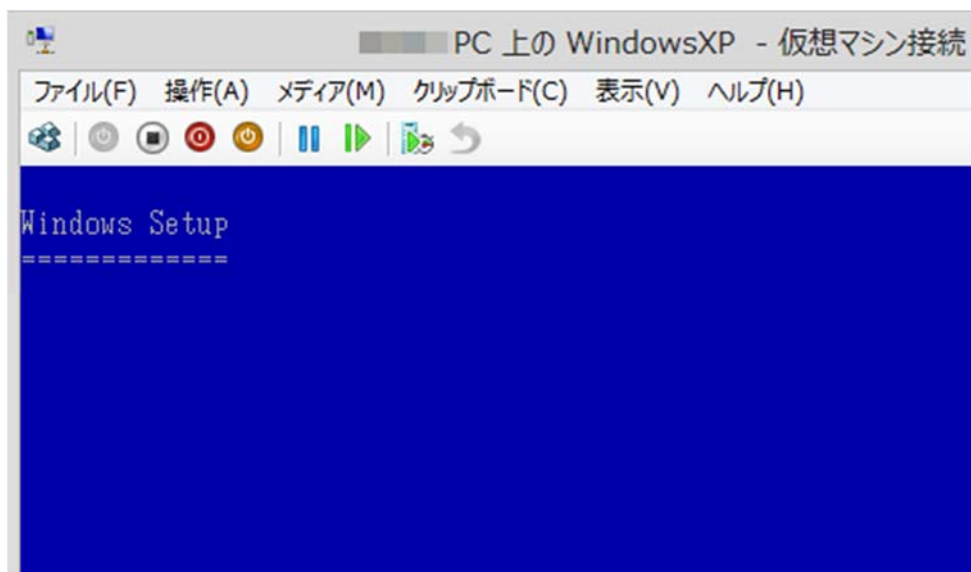
12. Hyper-V マネージャーの自分のコンピューター名をクリックし、名前を付けたフォルダー名をダブルクリック。

仮想マシン(I)			
名前	状態	CPU 使用率	メモリの割り当て
WindowsXP	実行中	0%	1024 MB

1 3. 仮想 PC に接続されるので「操作」 - 「起動」とクリック。



1 4. 仮想 PC に OS のインストールが開始される。



その2

1. 「Hyper-V」を設定するには、予め Hyper-V を有効にする必要がある。「Windows + X」キーで「プログラムと機能」をクリック。「プログラムのアンインストールまたは変更」画面の左にある「Windows の機能の有効化または無効化」をクリック。「Windows の機能の有効化または無効化」の窓が開くので、「Hyper-V」にチェックを入れる「必要なファイルを検索しています」が終わり「必要な変更が完了しました。」になれば「今すぐ再起動(N)」ボタンをクリックしてシステムを再起動する。
2. スタート画面に「Hyper-V マネージャー」と「Hyper-V 仮想マシン接続」が表示されていることを確認する。
3. 「WindowsXP ディスク」を挿入する。
4. 「Hyper-V マネージャー」が起動する。起動したら、左の「PC名」をクリック。
5. 右側に「PC名」の項目が表示されたら「仮想スイッチ マネージャー」をクリック
6. 「仮想スイッチの作成」で、「外部」が選択されていることを確認して、「仮想スイッチの作成」をクリック。
7. 「名前」欄で任意の仮想スイッチ名を入力。
8. 「接続の種類」の「外部ネットワーク」にチェックが入っていることを確認。
9. プルダウンのメニューから、使用する「物理 NIC」を選択する
10. 「管理オペレーティング システムにこのネットワークアダプターの共有を許可する」にチェックが入っていることを確認して、「OK」をクリック。
11. 「ネットワーク変更を適用」の画面が表示されたら「はい」をクリック。
12. 「変更を適用しています」とメッセージが表示されるからメッセージが消えるまで待つと、「仮想スイッチ」が作成される。
13. 仮想中にエラーが表示されたら、いったん「仮想スイッチ」を削除して項目5以下を再実行。
14. 「Hyper-V マネージャー」画面に戻り、右側の「新規」をクリックして表示されたメニューから「仮想マシン」を選択して「次へ」をクリック。
15. 「名前」欄に任意の仮想マシン名を入力して「次へ」をクリック
16. 「起動メモリ」欄で仮想マシンに使用するメモリ容量を設定して「次へ」をクリック
17. 「接続」欄のプルダウンの表示メニューから作成した「仮想スイッチ」を選択して「次へ」をクリック
18. 同じように仮想ハードディスクの設定は必要に応じて指定して「次へ」をクリック
19. 「後でオペレーティングシステムをインストールする」にチェックが入っていることを確認したら「次へ」をクリック

20. 仮想マシンの設定を確認して「完了」をクリック
21. 「仮想ハードディスクを作成できませんでした」とメッセージが表示されたら項目18に戻り、仮想ハードディスクの「ディスク名」を変更する。
22. 右側に「仮想マシン」の各項目が表示されたら「設定」をクリック
23. 左端にある「IDE コントローラー1」の下層の「DVD ドライブ」をクリック
24. 「メディア」画面の「物理 CD/DVD ドライブ」にチェックを入れ。下のドライブを選択して「OK」をクリック
25. 「Hyper-V」画面に戻り「仮想マシン」の「起動」をクリック
27. 仮想マシンが起動したら「仮想マシン」項目の「接続」をクリック
28. 仮想マシン用のウィンドウが表示されたら、画面の指示に従って WindowsXP をインストールする
29. 仮想マシン内でマウスカーソルが操作できなくなったり、Windows8 側のマウス操作したい場合は「Ctrl + Alt + ←」キーを同時に押す
30. ホスト OS と仮想マシン間でデータのやり取りを行うには「統合サービス」をインストールする。メニューの「操作」をクリックしてメニューから「統合サービスセットアップディスクの挿入」を選択
31. 「インストールの完了」のメッセージが表示されたら「はい」をクリックして再起動

「仮想スイッチ」の削除

1. 画面上部にある「仮想マシン」項目内から削除する「仮想スイッチ」が作成されている「仮想マシン」をクリック
2. 画面右上にある「仮想スイッチマネージャー」をクリック
3. 「仮想スイッチ マネージャー」画面が表示されたら、左枠内から削除する「仮想スイッチ」をクリック
(仮想スイッチのデフォルト名は「新しい仮想スイッチ」)
4. 画面右下に表示された「削除」をクリックして「OK」をクリックして「はい」をクリック

「仮想マシン」の削除

1. 画面上部にある「仮想マシン」項目内から削除する「仮想マシン」をクリック
(仮想マシンのデフォルト名は「新しい仮想マシン」)
2. 画面右下に表示された「削除」をクリック
3. 「削除する」をクリック

「ネットワークに接続」

1. Hyper-V の右側にある「仮想スイッチマネージャー」左側「新しい仮想ネットワークスイッチ」の右

側「外部」が選択されている状態で「仮想スイッチ作成」のボタンをクリック

2. 名前はわかりやすいものにし、外部ネットワークに、ネットワークアダプタのドライバ名が入っていることを確認し、OKをクリック。
3. 仮想OSの選択欄で右クリックして「設定」
4. ハードウェアの追加 のところで「レガシネットワークアダプタ」を追加する。
5. 仮想スイッチ名に、上記までの設定で追加した仮想スイッチを選択して、OK。
6. 以降、仮想OSを起動すると、ネットワークに接続されている。

「Hyper-V ネットワーク「外部」を設定」

1. Hyper-V マネージャを起動
2. 「操作」メニューから「仮想ネットワークウィザード」をクリック
3. 「外部」を選択して「追加」をクリック
4. ネットワーク名を入力し「外部」が選択されていることを確認して「OK」をクリック → 「外部ネットワーク」が作成されました。この設定をPCに適用します。
5. 適用する仮想マシンを右クリックし「設定」をクリック
(★PC毎にネットワーク設定が可能です。(PC1は内部、PC2は外部など))
6. 左ペインで「ネットワークアダプタ」を選択し「ネットワーク▼」から作成した外部ネットワークを選択し「OK」をクリック

以上の設定により【ホストマシン】及び【仮想マシン】に新しいネットワークアダプタが作成されます。

IP アドレスはホストマシン同様に割り振られ、ホストマシン、他の仮想マシン、外部（他の物理マシンやインターネット）など全てにアクセスできる。